

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

第19号

発行日
2023年11月



発行 さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

市内の生物多様性スポット紹介

潜入！ 在日米陸軍「相模総合補給廠」の希少種！！

「相模総合補給廠… JR横浜線相模原駅の北側に位置する約200ヘクタールに及ぶこの広大な米軍の基地施設（右図参照）には、市内の他の地域では見られない希少種が生育・生息している。」

そのような噂を聞きつけ、今回、本ネットワークでは在日米陸軍の協力のもと、補給廠の視察を実施しました。すると、施設内における野生生物の生育（息）状況や、生態系保全の取組について貴重なお話を伺うことができました。

（1）希少種の生育・生息状況

相模総合補給廠には現状、絶滅危惧種を含む10種（植物7種、鳥1種、貝2種）（下表参照）の希少種が生育（息）しています。在日米陸軍では、毎年これらについてモニタリング調査を実施しており、生育（息）状況を把握しているとのことでした。

【ヒロハノカワラサイコ】

バラ科の多年草。地を這うような植物のため、周りに背の高い植物があると育たない。もともと河原でみられる植物だが、旧日本軍が土地整備のために河原から石や土砂を運んだ際に補給廠周辺に運ばれたと考えられている。

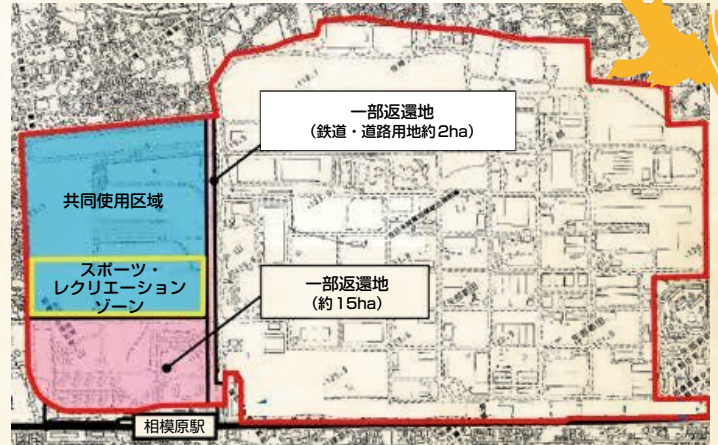
【カワラニガナ】

キク科の多年草。本州の中部地方以北に分布し、河原の礫地や砂地などに生育し、しばしば大株となり群生する。

砂利を敷いた圃場において確認できたが、南北道路ができてから、他種の被圧により見られなくなってしまった所もあるとのこと。

【オオタカ】

樹高の高いサワラにおいて、営巣を確認。



相模総合補給廠の位置図（相模原市HPより抜粋）

（2）自然環境を守る活動・取組

相模総合補給廠では、専門業者に委託して草刈りなどの保管理作業を行い、在来種の保護と外来種の駆除に努めているそうです。特にシオクグ、イヌハギ、ノジトラノオ、カワラニガナなどの希少種については、ロープで囲った圃場のようなものを設置して保護していました。

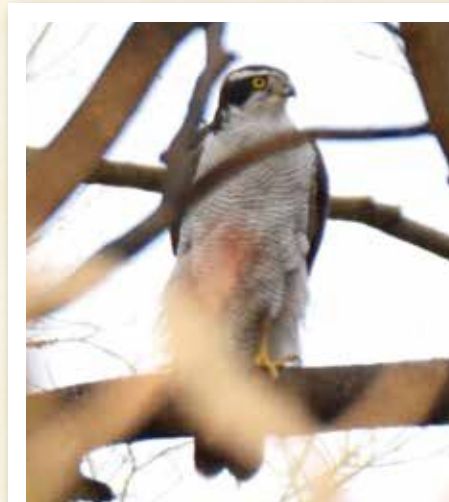
このように、米軍の基地施設として外部から隔絶した環境であるがゆえに、このような希少種が存在する豊かな生態系が育まれています。このことは、SDGs の観点からも非常に価値があることと思われるので、本ネットワークとしても引き続き注目していきたいと考えております。



ヒロハノカワラサイコ



カワラニガナ



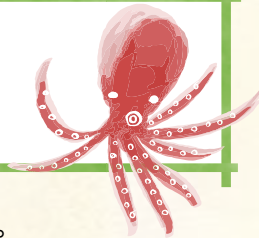
オオタカ

施設内のモニタリング対象種

分類	科名	種名
植物	マツバラン科	マツバラン
	ユリ科	アマナ
	カヤツリグサ科	シオクグ
	マメ科	イヌハギ
	バラ科	ヒロハノカワラサイコ
	サクラソウ科	ノジトラノオ
	キク科	カワラニガナ
鳥	タカ科	オオタカ
貝	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ
	ヒラマキガイ科	ヒメヒラマキミズマイマイ

会員活動 紹介

個人会員 佐藤 優子さん

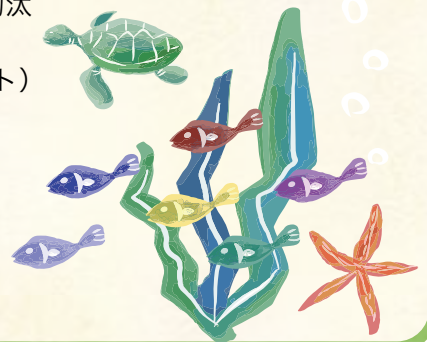


明治大学の
社会教育主事課程にて
講義を行う佐藤さん

生物多様性と聞いて思い浮かぶのは人それぞれだと思います。
函館で育った私にとっては何よりも新鮮で美味しい海の幸の豊かさです。
近所の魚屋さんや市場で手際良く捌かれていく季節毎の様々な魚、イカやタコ、カニやエビ、ナマコやホヤなど、生き生きと鮮やかな生命の力を感じていました。
小学校で担任の先生とみんなで行った海の岩場。水の中のイソギンチャクやヒトデ、様々な貝類、想像を超える不思議な生き物たちの美しい世界。
一方でその頃、水俣で起きている公害のことを知りました。その後、身近で感じる暮らしの変化は自然の豊かさを実感する機会を奪い続け、季節感も失われ、海はプラスチックゴミで溢れてしまいました。
豊かな多様性の価値を疎かにして、多くの生物を絶滅させてしまった人間に未来はあるのでしょうか？目に見えない細菌やウイルスや小さな昆虫によって淘汰される未来が妄想ではないように思うこの頃です。
そんな思いで「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク(略称・伝えるネット)に時々参加したりしています。

【私がお勧めする本】

「ユージンスミス 楽園へのあゆみ」 土方正志 2006 偕成社
「水俣物語」 尾崎たまき 2014 新日本出版社



土に触れよう！ 生物多様性豊かな土を取り戻そう！

生物多様性を元気にしよう④



私たちの身体は、食べることで、触れることを通して外的な自然環境と接続しています。人の健康に大きく影響し、とりわけ免疫機能を担っているのは、腸内で暮らしている細菌たちですが、私たちは、自力では作り出すことはできません。口と皮膚を通して外界の土壌から取り入れているのです。豊かで健全な土であれば、たった1gの土壌中に、数千万から数億という無数の微生物が存在しています。

幼幼期に豊かな土に触れ

ることは、身体の中に微生物を取り込み、その多くが腸に送り込まれ、その子どもの常在菌が決定していくという大事な行為なのです。2022年に開催された生物多様性条約COP15では、生態系、動物が健全であることと人の健康は一体のものであるという「ワンヘルス・アプローチ」の奨励を決議しました。地球が病めば、私たち人も病んでしまいます。コンクリートやアスファルトに覆われた環境では、子どもたちは腸内環境を整えることができません。人の身体内にも多様な微生物が暮らす生物多様性が必要なのです。豊かな土にまみれ、泥んこになって遊ぶ環境を作りだすことが子どもたちの未来を支えます。



会員募集中!! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます

年会費… 1口 1,000円
個人・団体会員 / 1口以上
事業者会員 / 2口以上

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)
住所：相模原市中央区中央2-11-15
電話：042-769-8242
Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp
ポータルサイト <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/seibutsu/index.html>

